

13 全学校に奄美ウイズダム授業(仮)を設置する

～奄美の子供たちに、奄美の知恵と歴史をわかりやすく面白く楽しく伝えて、20年後に奄美アイデンティティを持った世界に通用する人材を育てよう計画～

【目的】

- 1.子供たちに気づきを与え、刺激を与える。
- 2.大人たちに自信を取り戻させる。
- 3.地域活性化
- 4.奄美アイデンティティの植え付け。
- 5.IQ(知力)だけでなくEQ(人間力)を鍛える

【方法】

奄美の教育(できれば高校まで)の時間割に、毎週1回、道徳のかわりに「奄美ウイズダム授業(仮)」の時間をとってもらおう。

【講師例】

奄美の歴史に詳しい人、自然に詳しい人、島唄に詳しい人、黒糖焼酎に詳しい人、奄美の環境に詳しい人など17項目に照らし合わせて・・・と考えるのも良いが、できれば、子供たちの身近な人が良い。例えば「奄美の釣り達人、奄美のドローン操縦の達人、奄美のトランジェンダー・・・」など奄美のメンター(導く者)となる人たち。もっと言えば、地域に根付いた知恵のある人たちの話のほう奄美の良いところも悪いところも教えられてよりリアルかもしれない。いつも道端で酔っぱらっているおじさんやひなたぼっこおばあちゃんが講師をしたことで、実は「たんかん作りの達人だった」「島唄の名人だった」「シマグチの名人」と分かれば、今まで子供たちが挨拶しなかったのに、挨拶するようになり、話をするようになり、大人を敬い、子供たちが老人にも気をかけ、老人問題も考えるようになり子供たちから尊敬されれば、大人たちにも自信と活気が戻る。この提案は子供たちの為だけではなく自信や尊厳を失っている大人たちの為にもなるのでは？

【参考】

神奈川では中学校で「職業講話」といって、いろんな職業の人たちを10人集め10クラスに分けてそれぞれ職業の魅力を講義している。1年に1回やっているようだ。

すでに奄美でもやっているかもしれないがさらに改良。1年に1度だけではなく、職業アイデンティティを根付かせるためになるべく多く、奄美の全学校で、できれば「毎週土曜日」の授業が理想。

そして講師は「子供たちが興味をひくような易しい言葉で、面白く楽しく教える」事が肝でもある。

【提案理由】

奄美には素晴らしい自然があるが、裏腹に自然を失う多くの問題を抱えている。それは今さえよければ良いと思う大人が増えているからだと思う。私もその一人でした。でも「黒糖地獄」や「奄美復帰運動」など奄美の歴史を大人になってから知り、もっと早く知りたかったと思った。

島唄を唄う人を「ウタシャ(唄者)」と呼ぶが、本来は歌が上手いだけの者は「クイシャ(声者)」人間力を伴った歌の上手い者を「ウタシャ(唄者)」と呼ぶ。それを知った時に奄美の文化は素晴らしい哲学を持っていると感じ、老人が歌うだけと思っていた島唄が好きになり、奄美をもっと身近に感じ、大切に思うようになった。だからこそ、奄美の歴史や文化を早く子供たちに教え、歴史を怨恨にせず、「耐える文化、強さと優しさ、すつごれ精神」など「奄美のアイデンティティ」を子供たちの心のど真ん中に根付かせたい。それが最終的に奄美を誇りに思い、向上心を持つ人材が増え、その人材達が奄美を変えていく。そして、その人材達がまた子供たちに「授業する」これがループして、奄美はどんどん活性化し奄美から世界へ出ていく。そうすれば、10～20年後奄美が世界に知られ、奄美の人材が世界に通用する時が来るだろう。

(平田 輝)